

山田長政ど動く?! 後継者争いが劇化

すばる新聞

かあがみえる えんげきりしんぶん

新聞記者・宮城聰



アユタヤ通信 静岡

“メナム河の日本人”
たちに ひろがる動揺

アユタヤ王宮内では病床にある王の後継者をめぐり、王の弟を擁する「親王派」と、幼い王子を擁する「王子派」に割れることは必至の情勢だ。こうしたなか、日本人町の長、山田長政の動向に注目が集まる。

「タイアタヤ特派員 西村藍」

山田長政「写真左」は駿河国・駿府（静岡）に生まれ、興かきだったが一念発起しアユタヤへ渡ってきた。軍事指導者、貿易商として飛び抜けた才覚を発揮し、王宮からの信頼も厚く日本人傭兵隊長として活躍目覚ましい。へ親王派の高官たちは、日本人への税の免除などで長政を取り込もうと試みている。対するへ王子

政の今後の動向に少な

らぬ影響を与えそう。日本人町の住民もまた長政の決断に期待と不安を寄せている。

木 木 木

こうした山田長政の生涯をめぐっては諸説あるが江戸時代初期に海を渡り、立身出世にひた走った勇士の物語は根強い人気がある。作家・遠藤周作もいくつもの作品でその生きざまに迫ろうとした。なかでも「メナム河の日本人」は、彼の活躍から最新までを描く壮大な戯曲でありながら、上演の機会が少ない隠れた名作である。

しかし本作が描くのは、山田長政だけではなない。彼を取り巻く人間関係、それら登場人物の描写もまた各々のドラマを想像させる深みがある。さらに、作者の「信仰」への問題意識も織り込まれている。演出・今井朋彦は、「読み返すたびに発見がある」と語る。第一期稽古では、戯曲を丁寧に読み解くことに重点を置き、俳優たちとの対話を重ねてきた。山田長政ゆかりの地・静岡で、今井は本作をどのように蘇らせるのか。冠雪の富士を背に、うだる暑さにけがるメナム河が出現する。

11 関連インタビュー2面へ

作 遠藤周作
演出 今井朋彦出演（五十音順）
阿部一徳

大高浩一



加藤幸夫



佐藤やす



林大樹



三島景太



吉植荘一郎



スタッフ

照明デザイン
美術デザイン
衣裳デザイン
舞台監督
演出助手
山田貴大
演出部
守山真利恵
演出部
山崎馨
照明部
花輪有紀
音響
和田匠史、澤田昌希大迫浩二
深沢二
駒井友美
美術担当
佐藤洋輔
技術監督
清水千草
技術監督
村松厚志
制作
米山淳一、西村藍

山田長政は、彼の活躍から最新までを描く壮大な戯曲でありながら、上演の機会が少ない隠れた名作である。

SPAC秋・春のシーズン 2019-2020 #5

『メナム河の日本人』

The Menam River Japanese

会場：静岡芸術劇場

一般公演日

日本語上演／英語字幕

In Japanese with English subtitles

2020年

2月	15日[土]	14:00	A	東京バス
	16日[日]	14:00	A H	
	23日[日・祝]	14:00	A	浜松バス
	24日[月・休]	14:00	B	
	29日[土]	14:00	B	
3月	1日[日]	14:00	B	
	7日[土]	14:00	B	

◎チケット発売日

SPACの会 会員先行予約	11月16日[土] 10:00
一般前売り	11月23日[土] 10:00

◎チケット料金

一般	4,200円
SPACの会 会員一般	3,500円
ペア割引	3,700円(一般2名様で1枚につき)
ゆうゆう割引	3,500円[満60歳以上]
学生割引	2,000円[大学生・専門学校生] 1,000円[高校生以下]

※この他、グループ割引、障がい者割引がございます。
★静岡県内の小学生ご招待(1公演5名様まで)

◎購入方法

SPACチケットセンター(10:00~18:00/休業日を除く)

TEL.054-202-3399

SPAC公式サイト、劇場窓口でもご購入いただけます。

2019年12月29日[日]～2020年1月4日[土]は、電話・劇場窓口をお休みさせていただきます。

セブン・イレブン 店内のマルチコピー機をご利用ください。

未就学児との入場はご遠慮ください。

親子室、託児サービス(2/16, 23)をご利用ください。
※要予約/詳細はSPACチケットセンターまたは公式サイトにて

制作：SPAC・静岡県舞台芸術センター

助成：文化庁文化芸術振興補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：タイ王国大使館、静岡県タイ協会

関連企画

プレトーク：一般公演日の開演25分前より

A アーティストトーク ※ゲストは決定次第、公式サイトにて発表
終演後に演出・今井朋彦とゲストとのトークを開催。B バックステージツアー[参加無料/要予約]
終演後、創作・技術部スタッフが舞台裏をご案内。H はじめての演劇鑑賞講座[参加無料/要予約]
12:30～13:30 講師：永井健二(SPAC俳優)

中高生鑑賞事業「SPACeSHIPげきとも!」静岡県内の中高生を対象に招待公演を行っています。[下記の日程は一般販売のお席もごさいます(枚数限定)]
2月19日[水] 13:30 | 26日[水] 13:30 | 27日[木] 13:30 | 3月3日[火] 13:30 | 11日[水] 18:00

こりゃ来らん!

申し込みは

お早め!

観劇バス

定員あり

【東京バス】2月15日[土]

渋谷発 9:30 → 劇場着 13:00

【片道1,000円】

【浜松バス】2月23日[日・祝]

浜松発 11:30 → 劇場着 13:00

【片道500円】

申込締切：東京バス 2月12日[水] / 浜松バス 2月19日[水]

申込先：名鉄観光サービス(株)静岡支店

TEL:054-286-5681(平日9:30～17:30)

お帰りの便は、トーク終了後に出発いたします。

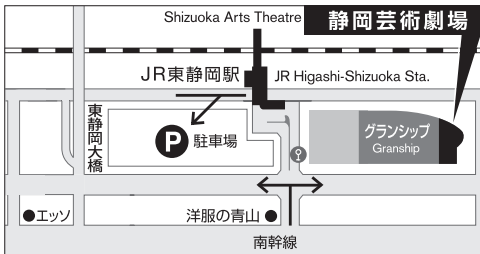
◎アクセス

静岡芸術劇場

静岡市駿河区東静岡2丁目3-1
(グランシップ内)

JR「東静岡駅」南口より徒歩5分

お車の場合はグランシップ一般駐車場をご利用ください。



◎主催・お問い合わせ

SPAC・静岡県舞台芸術センター

TEL:054-203-5730 FAX:054-203-5732

E-mail:mail@spac.or.jp

SPAC公式サイト[JP/EN]

https://spac.or.jp



SPAC

SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

芸術監督 宮城聰

スバク=静岡県舞台芸術センター



演出家のことば



今井朋彦

「戯曲を読まれた印象は？」
一幕一場を読み始めてすぐに、「このスケール感にはまるでシェイクスピアだ」と感じました。かつりとした物語のベースに、遠藤周作さんの宗教観や人間観が乗っかっていて、通じるものがあるなど。

それから、良い意味で余白がたくさんあるんですね。行と行、シーンとシーンの間に余白があって、読み返すたびに「こういうことも考えられるよね」と発見できる。そこに創る側としての楽しみもある。少し生意気な言い方かもしれませんが、今回のメンバーでどう読むのか、それを創っていくことが、今この戯曲を上演する意義なんじゃないかと思っています。

俳優としても活躍される今井さんですが、SPACの俳優の印象は？

これまで二度、SPACで演出をさせていただきましたが、SPACの俳優には身体の強さを感じます。その点は今の時代では通じないかもしれません。

余白のなかにある人間のドラマを描く

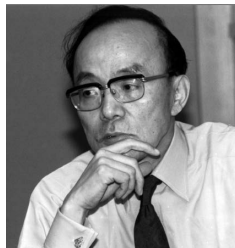
回も変わりませんが、改めて印象的なのは、稽古に関わる姿勢が真摯なこと。余計なことをいらない、余計なことをしない。この戯曲は史実に則りつつ、遠藤さん独特の宗教観も入っている。稽古の中で、僕以上に俳優たちが色々と調べて、「こうなんじゃないか」、「いや、こういう考え方もある」と忌憚のない意見を言ってくれます。これも「真摯」ということのひとつの現れですね。演出助手さんから「調べて掘り下げて、突き詰めるのが好きな俳優ばかり集まりましたね」と言われました(笑)。

「山田長政ゆかりの静岡での上演、どんなふうに見てもらいたいですか？」

単身アユタマに渡り、官職まで得た長政は、ある種、英雄と言えます。この戯曲はいわゆる英雄譚ではないので、長政と彼を取り巻く人々との関係、野心や葛藤など、一人の人間としての長政の姿を楽しんでいただければと思います。

また、戯曲に余白があるように、お客様が何を帰るかも様々であってほしい。こちらが意図したこと何%がお客様に伝わったのか、ではなく、もう少しゆるいコミュニケーションの時間があったら良いかと考えています。ただコミュニケーションは確実に起こしたいですね。

幕間



長崎市遠藤周作文学館 学芸員 川崎 友理子
遠藤周作は、膨大な資料調査に加え、作品の舞台となる土地を訪れ、主人公たちの心象風景を追体験し、そこで感じたことを織り込んで創作するという手法をとった作家だった。遠藤とアユタマの出会い、一九七一年に遡る。『死海のほとり』執筆のための中東旅行からの帰路、偶然アユタマに立ち寄った遠藤は、王宮の廃墟にたどり着き、そこで繰り広げられた人間の劇を見つめた。権力をめぐる人間の様々な心理がうごめき、滅んでいった場所。「この廃墟の静けさは、幕がおり、人々が姿を消した劇場内部の静寂を私に思い出させた」(「廃墟と芝居」)

『メナム河の日本人』の取材旅行 — 廃墟への関心 —

という一文には、戯曲の執筆に至った心情が察せられる。やがて遠藤は、「神の国」に永遠の価値を求めたペトロ岐部と「地上の国」の建設を目指した山田長政とが数年間、同時期にアユタマにいた事実を知り、二人の交流を創作した。
「日本人とは何か」を浮き彫りにし、人間の劇の悠久性が描かれた本作の最後の場面は、黙って多くの人間の人生を見てきた廃墟の眼と、その奥にある神の眼差しが感じられ、深い余韻を残している。



文学館からは、雄大な角力難(すもうだ)が一望できる。

*写真提供(文中すべて) 遠藤周作文学館

メナム河の日本人 ゆかりの静岡探訪

俳優で歴史雑学王の吉植荘一郎が、山田長政の生れた静岡浅間通り商店街の歴史委員・原本公子さんとともに、ゆかりの地を訪ねた。作品を紐解くと、長政だけでなく静岡とのつながりが見えてくる。
(取材文 内田 稔子)

浅間通り商店街

浅間神社の門前町として今川時代にはすでに市が立ち栄えていた。商店街の中ほどには長政の胸像がある。享年40歳とは思えない老け顔(笑)は、後世描かれた肖像画を基にしている。毎年10月に「日・タイ友好長政まつり」が開催され賑わう。

▲長政胸像前で、吉植(左)と原本さん(右)

静岡浅間神社(静岡市葵区宮崎町102-1)

地元では通称「お浅間さん」。2,000年前にはこの地に鎮座していたと伝えられる。アユタマ王朝で母職に就いた長政は「故郷に金庫を築くべく『新編図絵馬』を奉納。原図は1788(天明8)年に焼失したが、3枚の模写絵が神社に残る。

▲高さ25mの壮麗な大拝殿

カトリック静岡教会

幕府のキリシタン弾圧は、ここ馬場村から始まった。家康の小姓・原主水(はら・もんど)も棄教を拒み、厳罰のうえ馬場村から追放されるも、江戸で密かに布教を続け、火刑に処された。作中の神父・ペトロ岐部もまた、日本に戻り、絶大な殉教を遂げた。かつて馬場村があった場所に教会と原主水の像はある。

▲副住職の別府浩環さん(右)と。▲長政の供養塔。タイからの旅行客が手を合わせたことも。

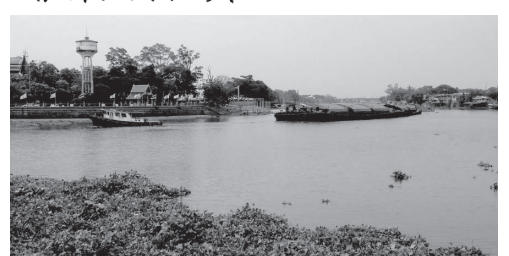
西敬寺(静岡市駿河区大谷5105)

真宗大谷派の寺院で山田家の菩提寺。長政が生きた時代には馬場城近くにあったが、その後何らかの移転を経て現在の地に。長政の供養塔があり、その下に遺髪が埋まっているそうである。

▲副住職の別府浩環さん(右)と。▲長政の供養塔。タイからの旅行客が手を合わせたことも。

真宗大谷派の寺院で山田家の菩提寺。長政が生きた時代には馬場城近くにあったが、その後何らかの移転を経て現在の地に。長政の供養塔があり、その下に遺髪が埋まっているそうである。

<番外編>タイ・アユタヤ



アユタヤ市内を流れるチャオプラヤ(メナム)川。かつて、この下流に日本人町があり、最盛期にはここに3,000人の日本人がいたとも。(photo by 吉植)

編集後記

国際貿易都市だった大御所時代の駿府。自由闊達な空気が城下に満ちる一方、「士農工商」の身分制度が固まりつつあり、長政のように「旗揚げたい」者は海外に飛び出すしかなかったのかもしれない。人は歴史が作り、歴史は人が作る。時代の空気と、変わらぬ人間の情念に改めて想いを馳せました。(制作部 内田 稔子)

1600年 前後の日本と世界
船がアジアでさかんに貿易し、信長は西欧に強い興味を抱いていたのだが、関が原の合戦で勝利し、幕府を開いた徳川氏は鎖国の方へと舵を切ったのだ。戦国大名は、特定の人(御家人)を服従させるのではなく、領地全体を面として統治した日本史上最初の支配者である。彼らの領地拡張への意欲は強く、ついに列島全体がほぼ一つの領地にまとめあげられた。が、そこまで来たところで突然、勝者は外への関心を失い、内へと閉じることを選んだ。

西欧と日本のこの違いが二五〇年後に出た。日本人がサンフランシスコに現れるのではなく、アメリカ人が浦賀沖に現れたのだ。

その時代

一六〇〇年頃は、西欧にとっては海の時代、海外進出の時代である。イギリスやオランダがアジアに進出し、東インド会社を設立した。それだけではない。今から振り返ってより重要なのは、イギリス人が北米に入植し、後に合衆国となる共同体を建設し始めたことだ。

すばく新聞第13号
以下制作部
写真 中尾 崇治
組版 西村 藍
編集 (演目担当) 米山 淳一、西村 藍
(広報班) 坂本 彩子、内田 稔子
(手書き版) 永井 健二、編集部